

# 結核緊急実態調査について

結核研究所対策支援部 企画科長・兼医学科長 星野斉之



平成11年6月30日に公衆衛生審議会結核予防部会から報告された「21世紀に向けての結核対策（意見）」には、特に重要性の高い取り組みとして、「我が国における再興感染症としての結核の現状調査」が挙げられていました。これを受けて、厚生省では、平成12年度に結核緊急実態調査を実施することとなりました。結核緊急実態調査の概要と各調査の実施要綱を基に、同調査の背景、目的、調査内容及び予定されている活用方法について紹介します。

## 背景

本調査を行うに至った背景として、概要には「結核予防法に基づく結核対策の実施により、日本の結核罹患率は1970年代まで10～11%の減少率（年率）で低下してきた。し

かし、1980年代から減少鈍化し、97年から2年連続の増加（旧分類）に転じた。結核予防法制定当時（1950年代）と近年の結核の疫学的状況を比較すると、以下の変化が指摘できる。

- (1) 患者の主体が、青壮年層中心から高齢者中心へ
  - (2) 特に一部地域（特に都市地域）における高い結核罹患率（住所不定者の結核など）
  - (3) 薬剤耐性結核（特に多剤耐性結核）の出現
- このような変化の中で、今日の日本の結核状況及び結核対策の実態を調査することにより、それらの問題点と課題を明確にし、現状に合わせた効果的な対策を推進する必要がある」と、述べられています。

なお、調査概要の作成後、平成11年結核発生病動向調査年報集計結果が発表されました。

その結果の一部を以下に示します。  
(1) 罹患率の減少鈍化から増加へ

平成11年中に新たに結核患者として登録された者の数は4万8430人で、前年より4414人増加している。増加数も、243人（平成8年と9年の差）、1301人（平成9年と10年の差）と年々増大している。罹患率は人口10万対38・2であり、前年の34・8より3・4増加している。

(2) 高齢者の結核患者の急増

平成11年中に登録された結核患者中、70歳以上の占める割合は39・1%であり、前年（36・0%）より増加している。70歳以上の罹患率は、1333・0であり、前年1116・1より上昇している。

(3) 大きい国内地域間格差

結核罹患率の最高値を示した大阪市（113・3）と最低値の長野県（17・3）では6・5倍の差がついている。

このように、緊急実態調査の背景の中で指摘されていた疫学的状況の変化は、より顕著になっており、同調査の必要性を示唆する結果となりました。

## 目的

調査目的は、「現在の結核の現状把握と結核対策の効果を評価することにより、今後の

結核対策の方向性を議論する基礎資料とする」とされています。現状把握するにあたり、明確にすべき点として、以下の項目が挙げられています。

- (1) 結核患者の状況（結核登録者数の推移、診断・登録の精度、危険因子の把握等）
- (2) 結核医療の状況（治療内容、院内感染の状況、多剤耐性結核の状況）
- (3) ツ反検査とBCGの現状（ツ反検査の受診状況とBCGの接種率と接種技術）
- (4) 結核予防法に基づく結核対策の状況（発生届け出、治療、接触者検診、予防内服等の状況）
- (5) 対応困難例の状況（治療中断例等に関する状況）

## 調査の内容

今回新たに行われる調査は、(1)結核死亡者調査、(2)結核登録者調査、(3)慢性排菌患者調査、(4)ツ反検査及びBCG接種に関する調査の4種類です。

### (1) 結核死亡者調査

〔調査目的〕結核死亡者の登録状況を明らかにし、結核発生动向調査の質的改善を図るための基礎資料を得ること。

〔調査対象〕平成10年に結核で死亡した結核患者全数（人口動態統計上「結核死」に分類

された者2795人）とする。

〔調査項目〕病型、年齢階層及び性別の結核死亡者数。

### (2) 結核登録者調査

〔調査目的〕日本における結核患者の実態を明らかにし、今後の結核対策の方向性を示すための基礎資料を得ることを目的とする。

〔調査対象〕平成10年に登録された発生动向調査上の結核登録者、非定型抗酸菌症を除くのうち、①マル初対象者の20%、②0～14歳結核登録患者の全例、③15歳以上結核登録患者の20%とする。

#### 〔調査項目〕

①マル初対象者 性、年齢、職業、BCG接種の有無、ツ反応結果、マル初の診断根拠、使用薬剤、感染源の状況、治療経過、発病状況

②0～14歳結核登録患者 性、年齢、職業、患者発見方法、登録時患者分類、ツ反・BCG接種の既往、感染源の状況、菌検査結果（検体の種類、同定検査、薬剤感受性）、治療経過及び結果の状況、治療中断例の状況等

③15歳以上結核登録者 性、年齢、職業、患者発見方法、発病・初診から登録までの期間、登録時患者分類、医療保険、国籍、BCG接種の有無、感染及び発病危険因子、診断の経緯、菌検査結果（検体の種類、同

定検査、薬剤感受性）、接触者検診及び院内感染の状況、治療経過及び結果の状況、治療中断例の状況等

### (3) 慢性排菌患者調査

〔調査目的〕日本における慢性排菌結核患者の実態を明らかにし、今後の結核対策の方向性を示すための基礎資料を得ることを目的とする。

〔調査対象〕平成11年末現在登録されている結核患者のうち、平成10年1月1日以前に登録され、平成11年の1年間に菌陽性の者

〔調査項目〕性、年齢、職業、患者発見方法、登録時患者分類、医療保険、登録時菌検査結果、菌検査結果（治療開始時と平成11年中の菌株に関する薬剤感受性検査）、治療経過、使用薬剤、慢性排菌となつた要因、社会生活等

### (4) 乳幼児ツ反検査、BCG接種状況調査

〔調査目的〕乳幼児に対するツ反検査、BCG接種実施の実態を明らかにして、接種率及び接種技術水準を確保するための基礎資料を入手する。

〔調査方法〕以下の2種類の調査よりなる。

#### ①市町村におけるBCG接種状況調査

〔調査対象〕全国市町村

〔調査項目〕ツ反応の年齢分布、ツ反及びBCGの接種の形態、実施方法、勧奨方法等

②乳幼児BCG接種の技術評価に関する調査

〔調査対象〕抽出された市町村  
 〔調査項目〕BCG接種の既往、接種時期、  
 副反応、針痕数、未接種理由等  
 なお、結核登録者調査と慢性排菌患者調査  
 については、調査対象者の個人名が明らかになら  
 ないようにするため、結核発生动向調査  
 上の患者整理番号にて識別するように配慮さ  
 れています。

● 活用方法

- 本調査の結果は、以下の点において、活用  
 する予定です。
- (1) 結核状況に対する国民、行政関係者、医療  
 関係者の正しい現状認識
  - (2) 対策の重点の明確化及び不足する部分の認  
 識
  - (3) 対策の枠組み、制度の見直し
  - (4) 今後の対策の将来見通し及び目標設定
- 以上のように、本調査は、日本の結核対策  
 の今後の方針を決めるための基礎資料を提供  
 するという、重要な役割を持っています。本  
 調査に関わることになった方々には、心から  
 御理解と御協力をお願いする次第です。

都市部における結核対策の強化

日本版21世紀型DOTS戦略

第一健康相談所 診療部長 増山英則

結核対策の充実強化への取り組みの一貫として、本年4月、公衆衛生審議会結核予防部会の下に「結核緊急対策検討班」が設置され、このたび「都市部」及び「高齢者等」を中心とした対策の方向性がまとめられました。

本検討会委員である第一健康相談所増山診療部長に、都市部における結核対策の重点であるDOTS戦略について、解説していただきます。

日本版DOTS戦略確立の  
 必要性

平成11年7月に「結核緊急事態宣言」が出されたが、日本の結核の現状は、塗抹陽性新患者数の最

近20年間の横ばい並びに増加状態や罹患率の地域格差など、未曾有の事態を迎え、特に都市部においては、従来の結核対策のままではこのような局面の打開は困難な状態に立ち至っている。

しかしながら、現在の発展途上国を上回るほどの戦中戦後の結核高蔓延状態を、先人たちの対策、業績が現在の日本の状態に収束せしめたのも事実であり、また日本の結核対策は疾病対策のモデルと

称され、例えば日本全国のコホート観察調査による塗抹陽性初回治療患者の治療成功率は欧米とほぼ同じ値を示す(文献1)など、見事な成果を上げてきた。

一方、結核蔓延状況は欧米に比